



祐介の目

(No.1154)

大田祐介 (福山市議会議員)

酷暑の夏

今夏の暑さは異常である。にもかかわらず市長選挙があり、同時期にオリンピックが開催された。そのせいか、投票率はわずか23%であった。次回の市長選挙は4月の市議会議員選挙と同日に行っていたきたい。そのためには市長が任期より半年前の3月に辞職する必要があるが、そうすれば投票率も上がるし、選挙運動も楽になるし、選挙費用(税金)の節約にもなる。

こんな暑い日は空調の効いた部屋でのんびりオリンピック中継を見ていれば良かったが、そうできなかった方々もいる。旧体育館の解体工事が佳境に入り、近隣の住民はその振動と騒音で気が滅入ってしまった。旧体育館は四隅に頑丈な柱があり、四方から鉄骨トラスを連結して大屋根を支えていた。その柱が頑丈すぎで一本解体しただけで近隣住民が悲鳴を上げたのだ。1年前に「旧体育館の保存活用

を求める会」は旧体育館そのものを残すのではなく、四隅の柱と鉄骨トラスのみ残し、それを活用して新たな施設を建設してはどうかと提案した。いわゆるリノベーションであり、建築の専門家も柱の耐震性は高いと指摘していた。私が請願の紹介議員となり、もうスクラップ&ビルドの時代は終わったと訴えたが賛成少数で否決された。それが今になって柱の解体に四苦八苦しており、解体工事期間は延長し費用の増額も必至の状況だ。専門家の意見を無視した結果の税金の無駄遣いと指摘しておきたい。

オリンピックでうれしかったのは92年前のロス大会以来の馬術のメダル獲得だ。当時の馬術は五輪の花形競技であり、最終日に満員のメインスタジアムで開催された。日本馬術史上、唯一の金メダリストであり爵位を持つ西竹一中尉は「バロン西」と呼ばれ一躍大スターとなった。優勝インタビューでは「*MON*」*「我々は勝った」と述べ、人馬一体を強調した。その後、西は硫黄島で戦死したが、ぜひ「バロン西」で検索し、その雄姿をご覧いただきたい。4年後のロス大会でも馬術の活躍を期待したい。*